

CAC

**2020年度 第2四半期
決算説明資料**

－ 2020年1月～6月 －

2020年8月12日

株式会社 CAC Holdings

I. 2020年度第2四半期 決算概況

II. 今後の見通し

III. 参考データ

ご参考 上期主要ニュース

I . 2020年度第2四半期 決算概況

連結業績概要（前年同期比）

単位：百万円

	2019年2Q	2020年2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	26,251	24,139	▲2,111	▲8.0%
売上総利益	5,229	5,350	+120	+2.3%
(対売上比)	19.9%	22.2%	2.2pt	
販売費	4,391	4,425	+33	+0.8%
営業利益	837	924	+86	+10.4%
(対売上比)	3.2%	3.8%	0.6pt	
経常利益	810	976	+165	+20.4%
(対売上比)	3.1%	4.0%	1pt	
特別利益	3	0	▲2	▲73.6%
特別損失	0	58	+58	—
四半期純利益	438	535	+96	+21.9%
(対売上比)	1.7%	2.2%	0.5pt	

- ✓ インド子会社やCROの不振により、大幅な減収
- ✓ 減収の影響があったものの、新規連結寄与や国内ITが堅調に推移したこと等により、増益

【売上高】

インド子会社やCROが不振に終わったため、大幅な減収。

【利益】

減収の影響があったものの、昨年10月に買収したインドネシアを事業拠点とする Mitraisの新規連結寄与や、国内ITが堅調に推移したことにより、売上総利益が増加となった。販売管理費は、新規連結分の増加があったものの、CROを始めとしてコスト削減に努めた結果、前年同期とほぼ変わらない数値となり、営業利益や経常利益は増加。

特別利益、特別損失については大きなものはなし。

親会社株主に帰属する四半期純利益も、わずかだが、増加となった。

新型コロナ拡大など、期初に想定できなかったことも発生したため売上高は下回っているものの、利益に関しては、ほぼ予定通りに推移したと認識。

しかしながら、SIerとしての利益水準ははまだ低い状況であることは認識している。

セグメント別売上高・利益

売上高 単位：百万円

	2019年2Q		2020年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	16,204	61.7%	16,083	66.6%	▲120	▲0.7%
海外IT	5,902	22.5%	4,641	19.2%	▲1,260	▲21.4%
CRO	4,144	15.8%	3,414	14.2%	▲730	▲17.6%
合計	26,251	100.0%	24,139	100.0%	▲2,111	▲8.0%

営業利益

	2019年2Q		2020年2Q		前年同期比	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	増減率
国内IT	794	4.9%	959	6.0%	+164	+20.7%
海外IT	151	2.6%	274	5.9%	+122	+81.1%
CRO	▲108	▲2.6%	▲309	-	▲200	-
合計	837	3.2%	924	3.8%	+86	+10.4%

※売上高は外部顧客への売上高を表示

国内IT：売上高は前年同期並みに推移

システム開発案件などが堅調に推移したことにより増益

海外IT：ロックダウンによる事業活動の制限や前年同期に計上した大型案件の反動減により大幅減収となった一方、Mitraisの新規連結寄与により増益

CRO：主要顧客を中心に減収、新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、大きく減益

※当連結会計年度より、報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、国内ITセグメントと海外ITセグメント間におけるオフショア事業に係るセグメント利益又は損失の測定方法を変更しています。
なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の方法で作成しております。

【国内IT】

- ・売上高は160億8千3百万円と前年同期とほぼ同額に推移。
- ・利益は、金融機関向けの大型開発案件など、リスクや難易度が高い一方で利益率の高い案件が増加したことにより、前年同期比20.7%増加の9億5千9百万円。

【海外IT】

- ・業績の多くを占めるインド子会社が大きく影響。
インド子会社の主要拠点があるエリアでは、3月下旬から新型コロナ対策のロックダウンが始まり、現在も感染拡大が続いているため、ロックダウンは8月末まで継続予定となっている。
本年4月から6月については、受注済の案件は、リモートワークなどで対応できたが、新規案件の獲得が難しく、売上高は前年同期比21.4%減少の46億4千1百万円と大幅減収となった。また、前年同期に計上した大型案件の反動減もあった。
- ・利益については、インド子会社の減収による影響が最小限に抑えられたこと、また、Mitraisの新規連結寄与があったことなどから、前年同期比81.1%増加の2億7千4百万円。

【CRO（医薬品開発支援）】

- ・業績不振が続いており、立て直しを図っている段階。
- ・当第2四半期についても主要なお客様を中心に減収となり、売上高は前年同期比17.6%減少の34億1千4百万円となった。
- ・利益については、コスト削減を行ったものの、減収分をまかないきれず、さらに、新型コロナの影響で、製薬会社による治験の症例数の減少、中断や延期が発生したことから、3億9百万円の営業損失となった。

業種別売上高（新区分）

単位：百万円

	2019年2Q		2020年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	5,774	22.0%	6,348	26.3%	+573	+9.9%
製薬	6,704	25.5%	5,970	24.7%	▲734	▲11.0%
製造	3,528	13.4%	3,757	15.6%	+229	+6.5%
情報・通信	3,325	12.7%	2,614	10.8%	▲711	▲21.4%
サービス業など	6,917	26.4%	5,448	22.6%	▲1,469	▲21.2%
合計	26,251	100.0%	24,139	100.0%	▲2,111	▲8.0%

※売上高は外部顧客への売上高を表示

金融 : 国内ITでの大型開発案件の影響等により増収
 製薬 : CROの不振が主要因で減収
 情報・通信 : 海外ITの減収が主要因
 サービス業など : ITの減収が主要因、特に海外ITは大きく減収

✓ 金融と製造以外が減収

金融：国内ITが堅調に推移したことにより、約10%増加

製薬：CROが減収となったことから、11%減少

製造：国内ITについては主要顧客向けで減少したが、Mitraisの新規連結寄与があり、6.5%の増加

情報・通信：特にインド子会社の売上が減少したことで、21.4%減少

サービス業：国内、海外ともに減少。中でもインド子会社における昨年の大型案件の反動減の影響大

セグメント別受注高・受注残高状況（連結）

受注高 単位：百万円

	2019年2Q	2020年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
国内IT	17,234	16,468	▲766	▲4.4%
海外IT	6,517	5,171	▲1,345	▲20.7%
CRO	5,005	2,968	▲2,036	▲40.7%
合計	28,757	24,608	▲4,149	▲14.4%

受注残高

	2019年2Q	2020年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
国内IT	7,737	7,770	+33	+0.4%
海外IT	3,781	4,078	+296	+7.8%
CRO	6,928	5,460	▲1,468	▲21.2%
合計	18,447	17,309	▲1,138	▲6.2%

※受注高、受注残高は外部顧客への金額を表示

国内IT：主要顧客を中心に受注高減

海外IT：ロックダウンの影響を受けたインド子会社中心に受注高大幅減

Mitrais社の新規連結寄与などから受注残高は増加

CRO：主要顧客を中心に受注、受注残高ともに大幅減

【国内IT】

受注は昨年計上したハードウェア案件の反動などもあり4%ほど減少しているものの、受注残高は、前年同期並みの77億円を維持しているため、大きな問題とは捉えていない。

【海外IT】

新型コロナの影響が大きく反映され、受注高は、20%以上減少の約52億円。大きく減少したのはインド子会社。インドでは、依然、新型コロナ感染が拡大しており、現地でも今後を見通すのが難しい状況。

受注残高は、Mitraisの新規連結寄与により、前年同期比約8%の増加。

海外ITの受注、受注残高については、今後も注意していかなければならないポイント。

【CRO】

受注高が大きく落ち込み前年同期比40%の減少となり、積み上げていた受注残高を消化する形で、受注残高も20%以上の減少。

業種別受注高（新区分）

受注高	2020年2Q		前年同期比	
	2019年2Q	2020年2Q	金額	増減率
金融	6,457	6,792	+335	+5.2%
製薬	7,878	5,496	▲2,381	▲30.2%
製造	3,896	3,830	▲65	▲1.7%
情報・通信	3,640	2,461	▲1,178	▲32.4%
サービス業など	6,885	6,026	▲859	▲12.5%
合 計	28,757	24,608	▲4,149	▲14.4%

※受注高は外部顧客への受注高を表示

製薬 : CROの減少が主要因、国内ITも減少

情報・通信 : インド子会社のロックダウンの影響を大きく受け、海外ITが減少

サービス業など : 国内IT・海外ITともに減少

✓ 傾向としては業種別の売上高と似ている

金融：国内ITが堅調であるため約5%増加の68億円

製薬：CROの不振により30%以上減少し、約55億円

製造：国内ITが主要顧客向けで減少しているが、Mitraisの新規連結寄与で前年同期とほぼ同額

情報・通信：海外IT中心に減少したことにより、前年同期比32%減少の24億円

サービス業など：海外ITを中心に減少し13%減少の60億円

Ⅱ. 今後の見通し

今後の見通し

上期における新型コロナウイルスの影響

- ✓ リモートワーク等を活用し事業を継続中も、セグメント間で業績への影響に大きな差異
➡ 海外IT・CROは業績への影響が表面化、国内ITは軽微

今後の見通し

- ✓ 海外ITはインドでのロックダウン継続のため、今後も影響必至、影響度合いは不明瞭
- ✓ CROもマイナス影響が続くと予想
- ✓ 一方で国内・海外ともにデジタル案件の引き合いが増加

利益確保に軸足を置き、
選択と集中を推進し、サステナブルな企業へ

上期における新型コロナウイルスの影響

- ✓ 新型コロナについては、依然収束の兆しは見えていないものの、当社の事業は在宅勤務やオンライン会議等を活用し、継続。海外拠点などの遠隔地とのコミュニケーションについても、以前よりオンライン会議を中心に運用しているため問題なく継続。また、中国へのオフショア開発案件も問題なく推移している。
- ✓ 上期の業績への影響は、2020年4月以降、セグメントごとに大きな差が生じた。ロックダウン長期化や、緊急事態宣言による自粛要請のため、海外ITやCROなどは、マイナスの影響が出たが、国内ITについては、軽微な影響に留まった。

今後の見通し

- ✓ 新型コロナの影響を最も受けている海外ITでは、中核企業であるインド子会社の拠点でロックダウンが継続しているため、第3四半期以降も業績へのマイナス影響が避けられないと予想。また、日本国内でも新型コロナの収束が見えないことから、CROについてマイナスの影響が出ると考えている。一方で、アフターコロナへの対応として、デジタルトランスフォーメーションへの注目がさらに高まっており、当社でも国内外でデジタル関連案件への引き合いが増加しているなど、プラスに働く可能性有。
- ✓ 新型コロナによる影響を避けることは難しい状況だが、利益確保に軸足を置いて、顧客のデジタルトランスフォーメーションのニーズを取り込みつつ、選択と集中も推進し、サステナブルな企業となることを目指していきたい。

2020年度通期業績予想

単位：百万円

	2020年2Q 実績	2020年通期 業績予想	進捗率
売上高	24,139	52,000	46.4%
営業利益	924	2,000	46.2%
(対売上比)	3.8%	3.8%	—
経常利益	976	1,900	51.4%
(対売上比)	4.0%	3.7%	—
当期純利益	535	1,400	38.2%
(対売上比)	2.2%	2.7%	—

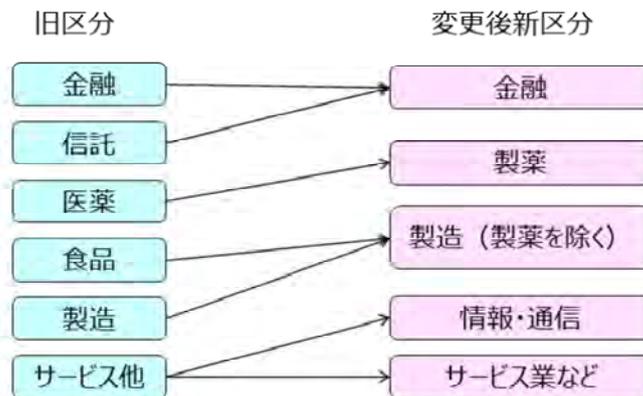
- ✓ 新型コロナの影響が不明瞭な状況ではあるが、現時点では業績予想を据え置き
- ✓ 今後も各グループ会社の動向については注視していき、収益の確保を重点的に進めていきたい

Ⅲ. 参考データ

- ※ 今期からの業種別区分の変更にあたり、旧区分での今期データの開示、および新区分での過去データの開示を行っています。
- ※ 区分の変更については、12ページをご参照ください。

業種別区分の変更概要

- ✓ 昨今のビジネス形態の変化に伴い、業種別の区分を変更
(参考データとして、今後一年間は説明資料に旧区分のデータも継続開示予定)
- ✓ 第2四半期および通期決算では、セグメント別データを業種別に区分したものを開示予定



新区分 セグメント別業種別 売上高

単位：百万円

	2019年2Q		2020年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	2020年2Q	構成比	金額	増減率
国内IT	16,204	61.7%	16,083	66.6%	▲120	▲0.7%
金融	4,283	16.3%	5,112	21.2%	+829	+19.4%
製薬	2,673	10.2%	2,485	10.3%	▲187	▲7.0%
製造	3,031	11.5%	2,776	11.5%	▲255	▲8.4%
情報・通信	1,537	5.9%	1,527	6.3%	▲10	▲0.7%
サービス業など	4,678	17.8%	4,182	17.3%	▲495	▲10.6%
海外IT	5,902	22.5%	4,641	19.2%	▲1,260	▲21.4%
金融	1,491	5.7%	1,236	5.1%	▲255	▲17.1%
製薬	169	0.6%	191	0.8%	+21	+12.7%
製造	479	1.8%	971	4.0%	+492	+102.7%
情報・通信	1,748	6.7%	1,058	4.4%	▲690	▲39.5%
サービス業など	2,013	7.7%	1,184	4.9%	▲829	▲41.2%
CRO	4,144	15.8%	3,414	14.2%	▲730	▲17.6%
製薬	3,861	14.7%	3,294	13.7%	▲567	▲14.7%
製造	17	0.1%	9	0.0%	▲7	▲44.0%
情報・通信	39	0.1%	29	0.1%	▲10	▲25.8%
サービス業など	226	0.9%	81	0.4%	▲144	▲63.9%
合計	26,251	100.0%	24,139	100.0%	▲2,111	▲8.0%

※売上高は外部顧客への売上高を表示

新区分 セグメント別業種別 受注高

単位：百万円

	2019年2Q		2020年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	17,234	59.9%	16,468	66.9%	▲766	▲4.4%
金融	4,654	16.2%	5,169	21.0%	+515	+11.1%
製薬	2,786	9.7%	2,370	9.7%	▲415	▲14.9%
製造	3,273	11.4%	2,884	11.7%	▲389	▲11.9%
情報・通信	1,452	5.0%	1,311	5.3%	▲140	▲9.7%
サービス業など	5,068	17.6%	4,732	19.2%	▲335	▲6.6%
海外IT	6,517	22.7%	5,171	21.0%	▲1,345	▲20.7%
金融	1,802	6.3%	1,622	6.6%	▲179	▲10.0%
製薬	284	1.0%	265	1.1%	▲18	▲6.5%
製造	596	2.1%	934	3.8%	+337	+56.7%
情報・通信	2,140	7.4%	1,102	4.5%	▲1,037	▲48.5%
サービス業など	1,693	5.9%	1,245	5.0%	▲447	▲26.4%
CRO	5,005	17.4%	2,968	12.1%	▲2,036	▲40.7%
製薬	4,808	16.7%	2,860	11.6%	▲1,947	▲40.5%
製造	25	0.1%	12	0.1%	▲13	▲53.0%
情報・通信	48	0.2%	48	0.2%	+0	▲0.2%
サービス業など	123	0.4%	47	0.2%	▲75	▲61.2%
合計	28,757	100.0%	24,608	100.0%	▲4,149	▲14.4%

※受注高は外部顧客への受注高を表示

新区分 業種別売上高（2017年～2019年通期）

単位：百万円

	2017年通期		2018年通期		2019年通期	
	売上高	前期比	売上高	前期比	売上高	前期比
金融	11,120	▲350	10,467	▲652	11,245	+777
製薬	15,187	▲123	15,397	+210	13,349	▲2,047
製造	6,245	▲489	6,557	+312	7,239	+681
情報・通信	6,487	+1,238	6,696	+208	5,879	▲817
サービス業など	14,228	+471	10,787	▲3,440	12,969	+2,181
合計	53,268	+747	49,906	▲3,362	50,683	+776

※売上高は外部顧客への売上高を表示

新区分 業種別受注高（2017年～2019年通期）

単位：百万円

	2017年通期		2018年通期		2019年通期	
	受注高	前期比	受注高	前期比	受注高	前期比
金融	10,767	▲292	10,817	+50	12,009	+1,192
製菓	15,810	+1,101	13,595	▲2,215	13,541	▲54
製造	6,016	▲454	6,584	+567	7,407	+822
情報・通信	6,355	+698	6,574	+218	6,305	▲269
サービス業など	13,196	+165	12,599	▲597	11,536	▲1,063
合計	52,147	+1,219	50,171	▲1,976	50,799	+628

※受注高は外部顧客への受注高を表示

旧区分 業種別売上高（当第2四半期）

単位：百万円

	2019年2Q		2020年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	3,076	11.7%	2,931	12.1%	▲145	▲4.7%
信託	2,697	10.3%	3,417	14.2%	+719	+26.7%
医薬	7,094	27.0%	6,368	26.4%	▲725	▲10.2%
食品	1,434	5.5%	1,404	5.8%	▲30	▲2.1%
製造	2,097	8.0%	2,293	9.5%	+195	+9.3%
サービス ^他	9,849	37.5%	7,724	32.0%	▲2,124	▲21.6%
合計	26,251	100.0%	24,139	100.0%	▲2,111	▲8.0%

*売上高は外部顧客への売上高を表示

旧区分 業種別受注高（当第2四半期）

単位：百万円

	2019年2Q	2020年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
金融	3,299	3,523	+223	+6.8%
信託	3,157	3,269	+111	+3.5%
医薬	8,215	5,845	▲2,370	▲28.9%
食品	1,775	1,579	▲196	▲11.0%
製造	2,117	2,179	+61	+2.9%
サービス他	10,191	8,211	▲1,979	▲19.4%
合 計	28,757	24,608	▲4,149	▲14.4%

※受注高は外部顧客への受注高を表示

ご参考： 主要ニュース

参考：主要ニュース(1/3)

<p>2020/1/22 2020/2/6</p>	<p>CACクロアの「化合物共有ライブラリー事業」に エーザイ、あすか製薬が参画</p> <p>CACクロアが2017年より取り組みを始めた化合物共有ライブラリー事業（以下「Quality Lead」）について、エーザイ(株)及びあすか製薬(株)と化合物ライブラリーの管理及びプレート作製業務の委託契約を締結。Quality Leadは、各製薬会社が保有管理している化合物を当社が提供する設備に集約し、化合物ライブラリーの管理からプレート作製までを一貫して行うことで、化合物管理に関わる経費削減を図る事業。Quality Leadの早期実現で日本発の革新的医薬品の開発支援を目指している。</p>
<p>2020/3/2</p>	<p>CAC、寄附金Web申請クラウドサービスの新バージョンを提供開始</p> <p>CACは、寄附金Web申請クラウドサービス「Academic Support Navi」の使い勝手を向上させた新バージョンの提供を開始。「Academic Support Navi」は、寄附金の申請受付から研究結果を報告するまでの一連のプロセスをWebサイトで提供するソリューションであり、標準機能で学術研究助成費、研究・開発費、患者団体からの寄附申込など各種申請に対応可能となっている。</p>
<p>2020/3/5</p>	<p>RPA×AI-OCR×プロセスマイニングで自動化を次のステージへ</p> <p>CACは、RPAとAI-OCRおよびプロセスマイニングを掛け合わせて自動化の範囲を広げる「CAC RPA+Oneソリューション」の提供を開始。このソリューションの実現に向け、ABBYYジャパン(株)および(株)デンダと、それぞれ販売代理店契約を締結した。</p>
<p>2020/3/16</p>	<p>CAC、AI を活用したトレーニングアプリを 明治安田生命の営業職員向けスマートフォンに提供</p> <p>CACは、AI を活用したトレーニングアプリ「心sensor for Training」を、明治安田生命保険相互会社の全国約32,000人の営業職員（以下アドバイザー）が持つ、業務用スマートフォン（MYフォン）に提供開始。アプリ導入はお客さまサービスの向上を目的とし、印象の良い表情を身に付け、アドバイザーが自信を持って業務遂行できることに貢献する。</p>

参考：主要ニュース(2/3)

2020/3/31	<p>CACグループ、「ポッチャ用具寄贈プロジェクト」実施報告</p> <p>CACグループは、レクリエーションもしくはスポーツとしてポッチャを推進している、もしくは障害者支援を行っている25の非営利団体・法人に対して、ポッチャ用具の寄贈を実施。2016年より開始したポッチャの普及・支援活動の中で、3回目の寄贈プロジェクトとなる。ポッチャ講習会を希望する団体へはグループ社員が往訪し、一緒にポッチャを楽しんだ。</p>
2020/4/15	<p>CACがWindows Virtual Desktop導入支援サービスの提供を開始</p> <p>CACはMicrosoft Azure上で提供される仮想デスクトップ基盤 (VDI) である「Windows Virtual Desktop」の導入支援サービスを開始。クラウド型の仮想デスクトップによりテレワークの導入を容易にし、新たな仕事の環境づくりに貢献する。導入にあたり、コンサルティングから本番導入、運用サポートまでトータルにサービス提供し、テレワークの早期導入や、企業のコスト削減に寄与する。</p>
2020/4/16	<p>CAC、SBIグループの外国為替コンファメーションシステム開発においてブロックチェーンによる実装で協力</p> <p>CACはSBIグループの外国為替取引事業会社であるSBIリクイディティ・マーケット(株)向けに、外国為替取引の確認情報をブロックチェーン/分散型台帳技術で共有するシステムの開発で協力。システム間のデータ連携に課題があるなどにより手作業で対応しているコンファメーション業務に先端技術を積極活用し、オペレーショナルリスクの低減や、高いプライバシー保護と改竄耐性の保護を図る。</p>
2020/4/17	<p>CAC、長崎拠点から医薬系ITサービスの提供を開始</p> <p>CACは長崎県内の事業拠点から、東京・大阪などの製薬企業向けのITサービスの提供を開始。7月からのサービス提供開始に向け、現地人材の採用を進め、製薬業界・業務に関するトレーニングを実施予定。今後、長崎県を拠点とする事業は、他業界への展開を検討する。</p>

参考：主要ニュース(3/3)

2020/5/8	<p>CACクローア、eCTD v4.0の申請支援をスタート</p> <p>CACクローアは医薬品の承認申請に必要な資料の電子化コモン・テクニカル・ドキュメント (eCTD) v4.0に対応した申請支援サービスを開始。eCTD v4.0に必要な不可欠なタスクを明確化することで、eCTD v3.2.2からの申請プロセスの変更を最小限に抑え、限られたリソースでもeCTD v4.0に対応できるサービスを提供する。</p>
2020/5/11	<p>CACクローア、新型コロナウイルス感染症対策・治験の早期開始に貢献</p> <p>CACクローアの販売する症例登録システムが、富士フイルム富山化学㈱が3月31日から実施している、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する、「アビガン®錠」(一般名：ファビピラビル、以下「アビガン」) の第3相臨床試験において採用された。新型コロナウイルス感染症の治療法の確立が急務な状況下において期待されている治療薬「アビガン」について、従来の開発期間を大幅に短縮する実質2週間で症例登録システムを構築し、富士フイルム富山化学の臨床試験の早期開始を支援した。</p>
2020/5/20	<p>CAC、AWSを利用した「enterpriseCloud+のDBマイグレーションサービス」を強化</p> <p>企業のアマゾン ウェブ サービス (AWS) 導入と活用を支援するクラウドサービス「enterpriseCloud+ (エンタープライズクラウドプラス)」の「DBマイグレーションサービス」について、オープンソース系データベースと互換性のあるAmazon AuroraへのDB移行に対応し、サービス内容を強化した。</p>
2020/6/29	<p>CAC、製造現場データをクラウドで見える化する「CAC Smart Factory 可視化サービス」を提供開始</p> <p>CACは製造業向けにIoT活用とスマートファクトリー化の推進を支援するサービスとして、工場など製造現場のデータを見える化し、生産効率向上と品質向上に貢献する「CAC Smart Factory 可視化サービス」の提供を開始した。クラウド活用によりスモールスタートが可能であり、導入効果を手軽に実感したい企業向けにトライアルプランも用意した。</p>



株式会社 CAC Holdings

経営企画部 Enterprise Value Upグループ

TEL : 03-6667-8010 E-mail : prir@cac.co.jp

お問合せフォーム :

<https://www.cac-holdings.com/toiawase/ir/>



CACグループは、障害者スポーツ「ポッチャ」の普及・発展をお手伝いしています

© 2020 CAC Holdings Corporation